

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第7号

《研究ノート》

石器石材としての大川原産珪質岩
黒川 忠広

鹿児島県における中世掘立柱建物跡の基礎的研究
―県本土を中心とした集成と若干の考察―
相美 郁恵

鹿児島（鶴丸）城下町の計画性
東 和幸

志布志市高吉B遺跡出土品の分析結果について
調査課第一調査係, (株)パレオ・ラボ, (株)パリオ・サーヴェイ

鹿児島県内出土のガラス玉の化学分析
中井 泉, 柳瀬 和也, 松崎 真弓, 澤村 大地, 永濱 功治

地域の素材を活用した社会科の学習指導
―地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業を通して―
宗岡 克英

《資料紹介》

万之瀬川下流の上水流遺跡出土東南アジア陶器の資料紹介
上床 真

収蔵遺物保存活用化事業
―豎野（冷水）窯跡の再整理を中心に―
調査課第一調査係

京田遺跡出土木簡のレプリカ製作
―墨書の再検討と実測図の修正―
調査課第二調査係

平成25年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター
2014. 6

『縄文の森から』第7号 目次

《研究ノート》

石器石材としての大川原産珪質岩

黒川 忠広 1

鹿児島県における中世掘立柱建物跡の基礎的研究 ―県本土を中心とした集成と若干の考察―

相美 郁恵 9

鹿児島（鶴丸）城下町の計画性

東 和幸 25

志布志市高吉B遺跡出土品の分析結果について

調査課第一調査係

(株)パレオ・ラボ, (株)パリノ・サーヴェイ 33

鹿児島県内出土のガラス玉の化学分析

中井 泉, 柳瀬 和也, 松崎 真弓, 澤村 大地, 永濱 功治 45

地域の素材を活用した社会科の学習指導

―地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業を通して―

宗岡 克英 51

《資料紹介》

万之瀬川下流の上水流遺跡出土東南アジア陶器の資料紹介

上床 真 57

収蔵遺物保存活用化事業 ―豎野（冷水）窯跡の再整理を中心に―

調査課第一調査係 65

京田遺跡出土木簡のレプリカ製作 ―墨書の再検討と実測図の修正―

調査課第二調査係 83

平成25年度年報 87

地域の素材を活用した社会科の学習指導

—地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業を通して—

宗岡 克英*

Guide in social studies by practical use of local materials

Muneoka Katsuhide

要旨

本稿では、地域の素材を活用した中学校社会科の授業の実践事例についてまとめた。筆者が在籍した志布志市立志布志中学校での実践を中心とした。地域の素材は、打製石斧・磨製石斧、飯盛山古墳、壺形埴輪、志布志新城、大慈寺である。学習方法は比較・分類やフィールドワークである。

キーワード 社会科学学習指導、遺跡、石斧、飯盛山古墳、志布志城、大慈寺、三国名勝図会

1 はじめに

筆者は、県立埋蔵文化財センターに8年間勤務した後志布志市立志布志中学校に赴任した。埋蔵文化財センターで得た知識や方法論は、社会科の学習において充分活用できると考えた。また、志布志中学校は志布志新城跡地にある。歴史の学習をする上でその事実を生徒に適切に伝えることができれば、歴史を身近に感じさせることができると考えた。本稿は志布志市にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業の実践例をまとめたものである。

ところで5年ほど前に幕末の志士坂本龍馬の生涯を描いたNHK大河ドラマ『龍馬伝』が話題になった。坂本龍馬とゆかりのある西郷隆盛や小松帯刀などが登場したり、霧島が舞台となるシーンもあったため、私たちの鹿児島でも『篤姫』のときと同様に、鹿児島・薩摩の歴史に対する関心が高まった。生徒たちもドラマを通して幕末から明治維新にかけての歴史に興味をもち、この時代を授業で勉強する際には、様々な質問が出された。あらためてテレビの影響力の大きさを痛感した。『龍馬伝』の成功は、坂本龍馬という人物を魅力的に描き、活用することによって、幕末から明治維新の歴史をわかりやすく視聴者にイメージさせることができたからだと思う。

この手法は、社会科の授業を組み立てる上でも大変参考になる。地域にある素材を活用し、その素材を手がかりとして、社会的事象の具体的なイメージをもつことができれば、生徒たちは、社会科の学習に関心をもつのではないだろうか。その素材は地域に多くある。しかし十分に活用しきっていない。「地域の素材を掘り起こし、授業で活用し、郷土に目を向けさせる。」このことは社会科教師の大きな役割であると考えている。

2 研究主題設定の理由

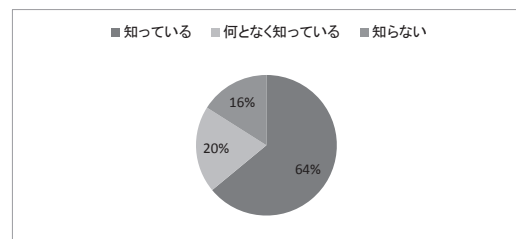
(1) 社会科教育の今日的課題から

平成18年に改正された教育基本法において、教育の目標の一つとして「伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と「郷土教育」の重要性が記され、日本の伝統や文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成がより求められている。また、鹿児島県も上の教育基本法に基づいて、①「郷土の自然や文化、伝統、歴史、産業等を知ることによって、郷土への理解を深める」②「郷土への愛情や誇りをもち、そのよさを守り伝え、郷土の発展に主体的に貢献しようとする」③「異なる文化の存在を知り、それを尊重する」ことを推進している。特にその中で、地域の素材を活用した学習指導は、歴史的事象や地理的事象をより身近に、そして具体的にとらえることができ、社会科学習への意欲を高める上で非常に有効であると考えている。そこで、志布志の地域素材を掘り起こす必要性を感じた。

(2) 生徒の実態から

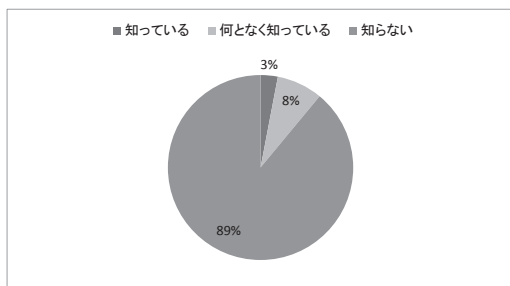
志布志市内にある寺や遺跡について以下のようなアンケートを実施してみた。(中2対象 155人)

① 宝満寺や大慈寺がどこにあるか知っていますか。

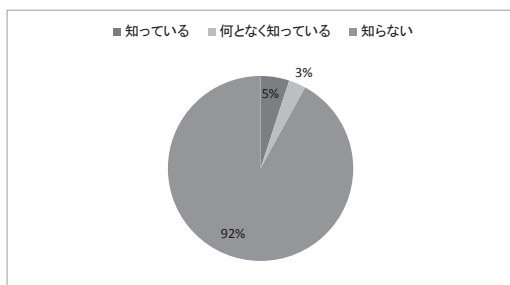


*公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

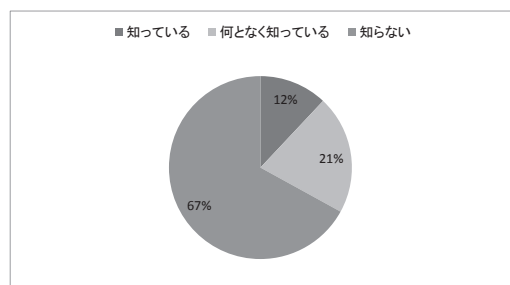
② 宝満寺や大慈寺がいつごろ建てられたか知っていますか。



③ 志布志市に古墳があることを知っていますか。



④ 志布志中学校は中世の城跡に建っていることを知っていますか。



平成 23 年 10 月 15 日実施

アンケートの結果によると、宝満寺や大慈寺は、その場所については知っている生徒が多い。お釈迦祭りなどでかかわりがあるからだと考えられる。一方、その寺がいつ頃建てられたのかなど歴史的な意義についてはほとんど知らない。また、志布志城跡や古墳など、現在その形をとどめていない遺跡については知らない生徒が多い。地域の歴史について、いかに知らないかを示す結果となった。まず、地域の遺跡について授業で紹介することの大切さを痛感した。身近にある遺跡は、授業で学んだ歴史的な事象を考える上で、大きな手がかりとなる。また、身近な遺跡のイメージを通して得られた知識はより定着する。志布志市には上記以外の遺跡も数多くある。それらの遺跡を生徒に紹介し、授業で活用する必要がある。

以上の二つの理由から、この研究主題を設定し、研究に取り組むことにした。

3 研究の仮説

地域にある遺跡や遺物を活用し、教材化することによって、歴史的な事象をより身近に、そして具体的にとらえることができ、社会科学習への意欲を高めることができるのではないかと。

4 研究の内容

- (1) 地域の素材を活用した社会科学習の意義
- (2) 地域の素材を活用できる単元（歴史的分野）
- (3) 地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業

5 研究の実際

- (1) 地域の素材を活用した社会科学習の意義

地域の素材を活用し教材化することによって、生徒たちは社会科の学習において社会的な事象をより身近に、そして具体的にとらえ、学習への意欲を高めることができる。つまり、生徒たちは自分の五感を駆使して、地域の素材を活用し、調べ、思考することができ、そのことによって生き生きとした学習が成立する。そして、その過程で、生徒たちは、実証的、科学的にものごとをとらえ科学的にものごとを考えていく力をつけていくことができると考えられる。加えて、地域社会の一員としての自覚を促し、地域の現実を正しく見つめ、地域の発展に寄与しようとする態度を育てることができる。

志布志市には多くの遺跡が存在する。縄文時代を始めとし、古墳時代の古墳、中世の山城や寺院跡、近世の武家屋敷、近代の洋館などである。特に本校の校庭は、志布志城の一部の新城跡である。以上のような、地域にある遺跡を社会科学習の素材として活用することにより、学習内容を身近に感じ、意欲的に社会科学習に取り組むことができると考える。また、学習を通して地域のことを知ることができ、最終的には地域を愛する態度を養うことができると考える。

- (2) 地域の素材を活用できる単元（歴史的分野）

歴史的分野において、志布志市にある素材（特に遺跡や遺物）を活用できる単元を考察してみた。数多くの素材があり、教材化できることが分かった。（網掛け部分が本論文に掲載した単元）

月	単元名(小単元名)	志布志市の素材
4	人類の出現 (生き抜く知恵の発達)	志布志市で出土した打製石斧 や磨製石斧 (遺物)
	古代文明 (四大文明の成立と仏教の誕生)	宝満寺(遺跡) お釈迦祭り (遺跡と祭り)

5	古代国家の成立 (巨大な古墳) (大化の改新)	飯盛山古墳 安楽山宮神社の大クス (指定文化財)
6	武家政治のはじまり (武士と民衆の暮らし)	大慈寺
10	ゆれる武家政治 (南北朝の争乱と室町幕府)	志布志城跡 (遺跡)
	中世文化の広がり (禅宗と東山文化)	大慈寺
11	江戸幕府の成立と鎖国 (身分ごとに異なる暮らし)	平山氏庭園 天水氏庭園
12	明治政府の成立と改革 (明治と大正の文化)	東郷医院 (洋館)

(3) 地域にある遺跡や遺物を活用した歴史の授業

ア 校庭から出土した打製石斧や磨製石斧の活用

本校校庭から出土した打製石斧と磨製石斧を利用し、実際に手で触れることによって打製石斧と磨製石斧がどのように作られているのか、またどのような使われ方をしたのかを考えることによって、旧石器時代や縄文時代の人々の生活を想像することができる。

また、出土した場所に実際に立つことによって、当時の人々が高台の見晴らしの良いところで生活していたことや、当時の環境が森林であったことなどを知ることができる。



打製石斧と磨製石斧

(ア) 単元名「生き抜く知恵の発達 (人類の出現)

1年社会 歴史

(イ) 学習過程 (太字で波線部分が地域の素材)

過程	学習活動	指導上の留意点
5 分	1 打製石斧 を見て、これが何かであるか、何に用いられていたかを考える。	○ 打ち欠いて作ってあり、えぐりが入っていることに気づかせる。
	2 磨製石斧 を見て、これが何かであるか、何に用いられているかを考える。	○ 表面を磨いてあることに気づかせる。
展 開 30 分	1 打製石斧と磨製石斧を比較してどちらがそれを作るのに時間がかかるのかを考える 学習課題	○ 石器の製作の違いは生活が変化したことによるということを考えさせる。 ○ 打製石器と磨製石器がどのように使用されたのかを考える

	4 旧石器時代と縄文時代の生活の様子を比較してまとめよう。	ことをとおして、旧石器時代と縄文時代の生活の様子についてまとめる。
終 末 15 分	5 打製石斧と磨製石斧に実際に触れてみる。 6 石斧が出土した場所に行き。	○ 祖先が作った道具に手で触れ五感で私たちの祖先の智慧の結晶を感じさせる。 ○ 当時の人々がどのような場所に住んでいたのかを想像させる。

(ウ) 考察

「人類の出現と古代文明」は、中学校に入学した生徒が最初に出会う単元である。意欲にみちたこの時期の生徒に歴史に興味を持ってもらうためには、歴史を身近に感じさせる工夫が必要である。

この単元を学習する上でレプリカの土器や石器をよく用いる。幸い志布志中学校には校庭から出土した本物の打製石斧や磨製石斧があった。最初何の説明もせずに打製石斧を見せたときの生徒の反応は、ただの石という答えが多かった。しかし、次第に説明をするにつれ、人工的に打ち欠いて作られ、また、えぐりが意図的に作られていることに気づいた。次に磨製石斧を見せたところ、表面がツルツルと磨いてあるのでただの石とは明らかに異なるものであると感じたようである。加えて打製石器と磨製石器を比較させることによって石器の製作技術が異なること、石器の用途が異なることを考えさせることができた。いずれの石器も中学校の校庭から出土したものであり、生徒たちの遠い祖先が実際にこの場所に住んでいたことを実感させることができた。最後に生徒全員に石器を直接触れさせたところ、五感を使って古代人の心や技術を感じることができたようである。また、石斧が出土した場所に実際に行くことによって、日ごろは校庭として見ている場所を旧石器人や縄文人の生活の場所として捉え、日ごろ見慣れている風景を違った視点で見ることができた。このように身近にある本物の資料を用いることによって歴史の学習に興味・関心をもたせることができた。

イ 飯盛山古墳と壺形埴輪の活用

古墳は、豪族たちがその権威を示すために作った墓である。大和朝廷が成立する畿内地方に多く残っている。大和朝廷という古代国家がその勢力を拡大する過程を考える上で、古墳がどこに分布しているのかわかることは大切なことである。志布志市にもダグリ岬に飯盛山古墳が存在する。この飯盛山古墳の存在を考えることによって、志布志と中央の政権との関係を考察することができる。また、飯盛山古墳から出土した壺形埴輪は、身近で出土

した副葬品として古墳時代への興味関心を引き起こすことができる。



飯盛山古墳出土の壺形埴輪

畿内地方で出土した埴輪

画像提供：東京国立博物館

(ア) 「古代国家の成立 (巨大な古墳)」

1 年社会 歴史

(イ) 学習過程 (太字で波線部分が地域の素材)

過程	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 大山古墳の写真を見て、この古墳の規模や所在などの既有知識を発表する。 2 国民宿舎ボルヴェリアダグリの写真を見てその建物の下に何があったのかを考える。	○小学校のときに習ったことを思い出させる。 ○日本地図を用い、志布志と畿内地方の地理的な位置関係を考えさせる。
展開 30分	3 飯盛山古墳 の形を考える。 学習課題 4 なぜ志布志に古墳があるのかを考えよう。 5 飯盛山古墳から出土した 壺形埴輪 の写真を提示し、畿内地方で出土する埴輪と見比べる。	○飯盛山の測量図を示し、それが円墳なのか方墳なのかそれとも前方後円墳なのか考えさせる。 ○大隅半島の古墳の分布を示し志布志以外にも多くの古墳が作られていることを示す。 ○志布志湾が畿内地方からの入り口であったことを理解する。 ○畿内地方の埴輪と見比べることによって志布志の埴輪の地域的な特徴を考えさせる。
終末 15分	6 志布志のダグリ岬に、前方後円墳を作った人々はどういう人々なのか想像してみる。	○畿内地方との密接な関係があったことをふまえて、自由に考えさせる。 ○何人かの生徒の考えを発表させる。

(ウ) 考察

大山古墳については、ほとんどの生徒が小学校で学習しているので、その場所や規模について答えることができた。しかし志布志のダグリ岬に古墳があったことを知っている生徒はほとんどいなかった。まずこの事実を示すことによって古墳の学習への関心が一挙に高まった。

飯盛山古墳の測量図を読み解くなかで、それが前方後円墳の形を表したとき、さらに関心は高まり、なぜ志布志に前方後円墳があるのかという本時の学習課題に結びつけることができた。

日本地図を見せることにより、黒潮を一つの道と考える視点をもたせることができ、畿内地方と志布志は意外と近いことを理解させることができた。畿内地方から渡ってきた人たちが最初に上陸するのが志布志や宮崎である。

大山古墳と飯盛山古墳を見比べることにより、そのいずれもが前方後円墳であるという共通性を見いだして、畿内地方と志布志の密接な関係を考えることができた。一方、飯盛山古墳から出土した壺形埴輪は、畿内地方にはあまりみられないものである。志布志の埴輪と畿内地方の埴輪を見比べることによって地域的な特色を考えることができた。志布志と畿内の古墳や埴輪を比較することにより、その共通性や差異が明らかになり、古墳時代に志布志に住んでいた人たちについて想像することができた。後日、西都原古墳で購入したと考えられる土産物の埴輪を本物の埴輪と思い、学校に持参してきた生徒もいた。授業で紹介し、その埴輪と志布志の埴輪を比較することができた。



志布志市の飯盛山古墳



畿内地方の大山古墳

ウ 校庭(新城)のフィールドワーク

本校校庭は中世の山城である新城跡である。自然の谷を利用した堀や土を盛って作った土塁等を現在でもみることができる。それらを実際に見学することによって、城が何のために作られたのか、またそのような城を必要とする時代背景はどのようなものだったのか考えさせることができる。

(ア) 単元名「南北朝の争乱と室町幕府 (室町幕府)」

1 年社会

(イ) 学習過程 (太字で波線部分が地域の素材)

過程	学習活動	指導上の留意点
	1 校庭自体が中世の山城であることを知る。校庭に残っている堀や 土塁 を見学する。	○校庭自体が山城であることを知らせる。見慣れている土手は実は土塁という山城の施設であることを知らせる。
	2 なぜこのような城や、城の	

導入 5分	内部の施設がつくられたのかを考える。 3 自然の地形を巧みに利用していることを知る。 学習課題 4 校庭内に落ちている遺物を採集しよう。	○ 南北朝時代は戦乱が続く世の中で、敵が容易に侵入できなくするためにこのような山城がつくられたことを気づかせる。 ○ 急勾配の崖や坂がうまく利用されていることに気づかせる。 ○ 中世の遺物が校庭にまだまだ多く落ちていることを実感させる。
展開 30分	5 教室に帰り、採集した遺物を分類し、似ているものを集める。	○ 似ている物同士を集め、分類することによっておぼろげながら当時の生活の一端が見えてくることに気づかせる。
終末 15分	6 志布志城跡 全景の航空写真を見る。	○ 志布志城を俯瞰することによって山城が自然の地形を利用して作られていたことなどを再確認する。

志布志中学校の校庭は志布志城の一つである新城跡である。主体となる曲輪部分は失われているが周囲に土塁が残っている。また、台地の北側に入り込む谷を利用した堀があり、台地と新城を切り離している。生徒にとってこのような事実は学習しなければわからないことであった。志布志城は、南北朝の争乱を中心とした中世の日本の様子を知る上で活用できる素材である。南北朝の争乱は、生徒にとって遠い京都や奈良での争いであると思われ、その様子を具体的にイメージすることが難しい。



志布志城跡の全景

そこで、学校の校庭に残る遺跡を活用して、南北朝の争乱を学習することができるのではと考えた。実際に校庭を歩きながら説明すると、最近つくられたと思っていた土手が実は600年以上も前に作られていたことや、急な崖が敵の侵入を防ぐためのものだったことなどの事実に驚いていた。当時の城が小高い台地に位置していることや敵の侵入を防ぐための様々な工夫を知ることによって、南北朝時代が争乱の世の中であったこと、志布志もそのような世の中の流れと無関係ではなかったことなどを考えることができた。

校庭には中世の陶磁器片などの遺物が多数落ちている。それらを一人で探し出すのは時間がかかるが、学級全員で探すことで短時間で多くの遺物が採集できる。採集し

た遺物を似たもの同士で集め、分類することによって、中世の生活の一端がおぼろげながら見えてくる。現代に残された茶碗のかけらなど過去の歴史のわずかな痕跡から中世の歴史像を再構築することができたのではないかなと思う。

最後に、志布志城を俯瞰した航空写真をみせることによって、台地上に位置する山城の意義や急勾配の崖など今日学習したことを再確認することができた。また、空間的に遠くから距離を置いて見ることは、歴史を遠くから客観的に眺めるといった視点を獲得することにもつながるということを感じた。



志布志中学校内の土塁

志布志中学校で採集した遺物

エ 大慈寺と「三国名勝図会」に描かれた大慈寺の活用

大慈寺は、1340年、鎌倉時代に創建された臨済宗のお寺である。寺の門の仁王像や建造物は、中世に広まった禅宗文化の面影を現在まで伝えてくれる。



「三国名勝図会」に描かれた大慈寺

また、この寺は江戸時代に薩摩藩によって編纂された「三国名勝図会」にも描かれている。

(ア) 単元名「中世文化の広がり（禅宗と東山文化）」

1年社会

(イ) 学習過程（太字で波線部分が地域の素材）

過程	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 「三国名勝図会」中の 大慈寺 を見せる、この建造物が何であるのか予想する。	○ 志布志にある寺であることを説明する。
展開 30分	2 現在の地形図を配布し、「 三国名勝図会 」と見比べて江戸時代の大慈寺の範囲を考える。 3 大慈寺の、江戸時代の敷地の広さを知る。	○ 鉛筆で当時の寺の範囲を地形図に書き込ませる。 ○ 寺の敷地の広さから当時の寺がもっていた力の大きさを実感させる。

展 開 30 分	学習課題	○ 双方の像は完成度には大きな差があるが、両方とも中世特有の雰囲気をもっていることに気づかせる。 ○ 座禅の境地を体感する。 ○ 感じたことは何でも話すことができる雰囲気をつくる。
	4 大慈寺の門にある 仁王像 を見て、東大寺南大門の金剛力士像と比較しよう。	
終 末 15 分	5 静かに黙想し、座禅を体験してみる。	
	6 座禅したあとの気持ちを隣の人と話し合う。(シェアリング)	
	7 教科書を読んで、鎌倉・室町時代の文化についてまとめる。	○ 鎌倉・室町時代の文化は、禅宗の大きな影響を受けていることを理解する。

(ウ) 考察

大慈寺は、1340年(鎌倉時代)に創建された。京都の臨濟宗妙心寺の末寺である。江戸時代には16の寺院を有し、100名以上の僧侶がいた。寺の建造物や門の両側の仁王像は中世の面影を現在に伝えている。この寺は、市街地の中心部に位置していることもあり、ほとんどの生徒がこの寺については知っている。しかし、寺の中に足を踏み入れた生徒は少なく、寺の歴史的な意味や、現在の寺の機能について知っている生徒は少ない。授業では、「三国名勝図会」に描かれた大慈寺を、現在の志布志市の地形図の中に探させた。次に「三国名勝図会」を見ながら、江戸時代の大慈寺の範囲を考えさせた。大慈寺が現在の寺の範囲をはるかに超える敷地を有していたことがわかってくると、当時の寺の権勢の大きさを理解することができたようである。

各時代の学習の終わりに、その時代の文化についての学習がある。その時代の建造物、彫刻作品や絵画作品を学ぶことが多いが、なかなか実物に触れることができないため、文化の学習に関心を抱かない生徒も多い。大慈寺の門の両脇にある仁王像は、江戸時代に作成された石像だが、中世の文化の雰囲気を伝える。授業では、この石像を写真で見せ、東大寺南大門の運慶快慶作の仁王像と見比べさせることによって、中世の文化の雰囲気をとらえさせた。最後に黙想させることによって、座禅の境地を体感させてみた。中世は戦乱が多く起こった時代である。それだからこそ、自分の心を深く見つめ、落ち着いた静かな境地が求められた。そのことを理解する上で座禅体験は効果的な経験であった。



大慈寺の門前の仁王像



金剛力士像

6 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ア 教科書中心の学習では、語句の理解や暗記だけにとどまりがちであるが、地域にある遺跡や遺物を活用し、教材化することによって、歴史的事象をより身近に、そして、具体的にとらえることができた。
- イ 地域にある遺物や建造物に実際に手で直接触れることによって、五感を用いて歴史の変化について考えることができた。
- ウ 地域にある遺跡や遺物と、教科書に掲載されている遺跡や遺物を比較することによって、その共通性と差異を知ることができ、郷土の歴史について深い理解を得ることができた。
- エ 地域にある遺跡や遺物を活用することにより、歴史はどこか遠いところに存在するのではなく、足下に歴史世界が広がっており、現在の世界に脈々とつながっていることを実感することができた。また、地域の遺跡や遺物を通して、地域の歴史に目を向けることができた。

(2) 今後の課題

- ア 地域の学習は校外学習が伴うことが多いため、時間の確保が難しい。総合的な学習の時間と関連づけながら時間を見いだす必要がある。
- イ 地域にある遺跡や遺物を活用した学習の成果を発表できる場を、授業の中や掲示板、あるいは文化祭などで設けていきたい。

7 おわりに

地域の素材を活用した社会科の学習を、特に歴史的分野の授業において実践してみた。志布志市は、全時代を通して遺跡や遺物に恵まれている。これらの遺跡や遺物は、歴史の授業に十分活用することができる。しかしながら自分自身の勉強不足もあり、なかなか効果的に活用することができなかった。過去の出来事や事物は、光の当て方によっては、私たちが生きるこの現代に生き生きと蘇り、私たちによりよく生きるための示唆を与えてくれる。今回の研究を基礎に、今後も継続して地域の素材を掘り起こし、それを教材化していきたい。

【引用・参考文献】

- 鹿児島県総合教育センター『指導資料 郷土教育 第1号』平成21年10月
- 志布志町教育委員会『飯盛山古墳』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(14)2001年
- 志布志町教育委員会『志布志新城跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(29)1992年